

好機を捉えて感謝せよ

第10期OB 石井 隆太

昨年、『おっさんずラブ』というドラマが流行ったそうですが、私も、何を隠そう、“オッサン”好きです。ただし、ドラマに登場するような純愛的な意味で、オッサンが好きなわけではありません。経験豊富で、社会に揉まれて洗練されていて、仕事を長年続けている男性の諸先輩方、そうした“オッサン”からは、人生とか仕事とか人間関係について学ぶことが沢山あるので、時間を共にするのが好きだという意味です。私が影響を受けた“オッサン”の一人に、寿司屋でアルバイトをしていた学部時代に出会った、“板前オッサン”がいます。寿司屋の表舞台であるカウンターではなく、裏の厨房にて、天ぶらを揚げたり魚を焼いたりするのが仕事です。私の就職活動の真っ最中に、この“板前オッサン”がよく言っていたのは、「自分が何をやるのかを分からないのに会社に入る奴のことが理解できん」でした。どの会社で働くかだけを決めて、どの職種（例えば、営業、商品開発、マーケティング、経理、法務など）で働くかを決めない（あるいは、決められない）就職活動は、和食料理人という職種を目指して進路を決めてきた“板前オッサン”の目には、奇妙に映るということでした。勿論、そうした日本的な就職活動にも良さは沢山あるわけですが、当時の私は、この“オッサン”の言葉に妙に納得してしまって、それが、大学院進学の後押しになりました。研究や教育に従事する大学教員という職種を目指した進路の決め方が、カッコよく見えたのです。そんな私は、現在、博士課程の2年生として大学院に在籍しておりますが、一足早く、この4月から、福井県立大学で大学教員として働けることになりました。大学院に進学してから、就職できるかどうかは不安要素の1つでしたが、食いつぶれが無くなったので一安心です。公立大学ですので、少人数ではありますが、ゼミも始まる予定です。新しい土地で新しい仕事に就くため、既にバタバタする兆しが見えてきていますが、目指してきた職種に就ける喜びを感じながら、新生活を楽しむことが目標です。さて、話を戻すと、私にとっては、小野先生も、漏れなく身近な“オッサン”の1人です。タイトルの訓示は、“小野オッサン”（念のため繰り返しますが、私の言うところの“オッサン”には、心からの敬意が込められています）から、教えて頂いたことです。「日頃から感謝を伝えている人に対して、わざわざ特別な日に感謝を伝える必要は無い」という主旨の発言をした私に、ボソっとおっしゃってくださった言葉だったと記憶しています。実は、この度、就職できることになったのは、学会や研究会でお会いした先生方のお力添えがあってこそでした。そして、言うまでも無く、“赤ペン先生”（論文の添削指導）をして頂いたり、金曜日の大学院ゼミで“スパーリング”（学会の発表練習）にお付き合い頂いたり、“お悩み相談室”（色々な雑談を含む）を開催して精神的に支えてくださった先生やゼミの方々のおかげです。就職という好機を逃さずに、お世話になった方々にきちんと感謝して、大学教員という職種のスタートを切りたいと思います。